

目的 わが国の平均寿命は急速に伸び、高令者社会が出現するに伴う問題点は種々あり
られてゐるが、衣服に対する関心は薄い。高令者が美しく装ふことは、着用者の心理に及
ぼす影響は大きいと考えられる。適合度の高い衣服を設計するには、高令者の体型把握は
重要であるが、これに関する知見は極めて少ない。私共は高令者の体型の特徴は背面の彎
曲にあるとの考えから、人体計測を実施し、さらに写真によって背面形状を把握すること
を目的とした。

方法 1978年7月、名古屋市立老人ホームにて男子60名、女子93名の計測および写真撮
影を行なつて資料とした。研究項目は長径13、周径9、横径5、矢状径4、幅径5の計36
項目と示数値6項目である。また、人体の形状を把握するために、後面、前面、側面から
写真撮影を行ない、この側面写真を拡大にトレースし、背面の後彎の状態を検討した。

結果 中年令層を基準としたモリソンの関係偏差折線により60、70、80才の各年代を比
較すると、60才では中年令層にほぼ近い体型を示すが、70、80才代では類似の傾向で減少
する。側面写真による考察では、顕著な背面の後彎がみられ、彎曲の位置は、背丈に対し
て第7頸椎より約4分の1にあるものの91%、約4分の1では89.6%、約4分の1では13%であつた。また、背
面の後彎に対してバランスをとるために姿勢が変化することばかり、前屈の姿勢および
前屈しながら上半身は後傾し、腹部が突出するなど高令者特有の体型を示すことがわか
れた。形状ならびに姿勢は計測値には現われていないから、衣服設計にこれらを反映させね
ば、着心地の良い衣服とはなり得ないと考えらる。